（資　料　7）

デンマーク・イギリスの Stroke unit 施設視察報告

平成１７年度　厚生労働科学研究費補助金による
我が国における Stroke Unit の有効性に関する
多施設共同前向き研究

デンマーク・イギリスのＳＵ施設視察報告

ＳＣＵ看護師長　川口桂子
聖マリアンナ医科大学神経内科教授　長谷川泰弘
看護部長　豊田百合子

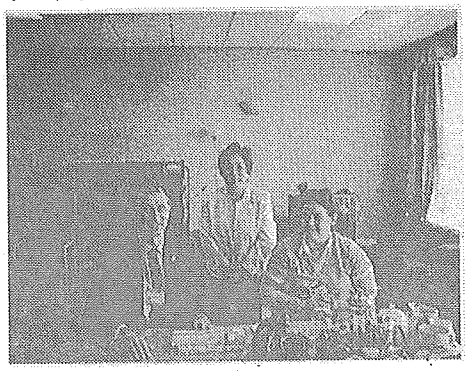
平成17年5月16日から5月26日まで、豊田看護部長、長谷川元国立循環器病センター脳血管内科医長とご一緒に、ヨーロッパでStroke Unitを保有するHvidovre Hospital（Copenhagen）とSaint Thomas Hospital（London）とQeens Square Hospital（London）を視察する機会をいただいた。

折しも2004年の脳卒中治療ガイドラインによりSCU・SUの有効性が認知され、平成16年10月より保険認可となったｔ-ＰＡ療法や脳卒中ケアユニット入院医療管理加算の導入など、日本においても脳卒中医療が大きく変わろうとしている時期の訪問となった。

ヨーロッパでは1990年頃からＳＵを設立し、その有効性を立証している。その診療現場を目のあたりにし、実際に触れることで、当センターのＳＣＵ・ＳＵ看護師の果たすべき役割を知るだけでなく、日本の脳卒中医療を客観的に見つめたいと考えた。

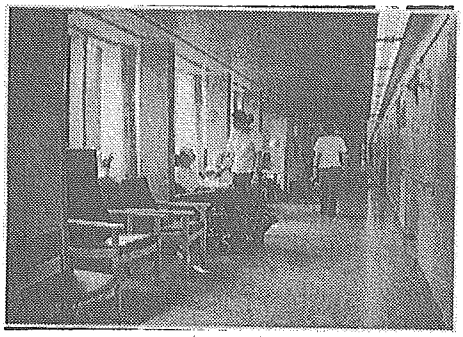
＜Prof、Olsonと長谷川教授と豊田看護部長
Hvidovre Hospitalにて＞

センターの看護師数と今回の3施設の看護師総数はほぼ同じであった。人口1人あたりの医師や看護師の数も日本もヨーロッパもあまり変わらない。しかし看護師の置かれた現状は全く違ってみえた。日本の病院数（ベッド数）は米国・デンマークに比べ人口あたり3倍近い数である。日本の病院とデンマークとでは総職員の数が1：3ほど違う。そのため1ベッドあたりの日本の看護職の数は少ない。

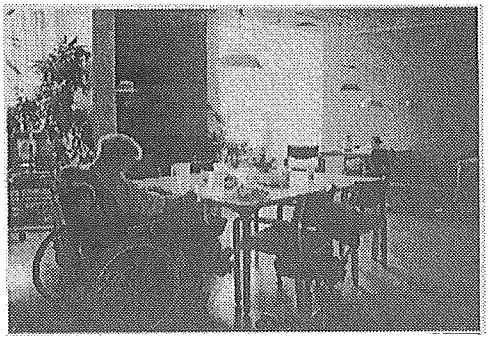


＜日本の病院数を聞いて驚いていた
Prof、RuddとSU看護師長
Saint Thomas Hospitalで＞

他職種（ＰＴやメッセンジャー業務）の数も日本よりヨーロッパは多い。デンマークのＳＵにおいてPTたちの多くは、病棟に所属している。搬送の無駄な時間が省かれるだけでない。リハビリ棟に来たときだけ指導をするのではなく日常生活の行動すべてをリハビリとしてとらえ、生活援助を行っている看護師と、一緒にアプローチができる体制が整っている。

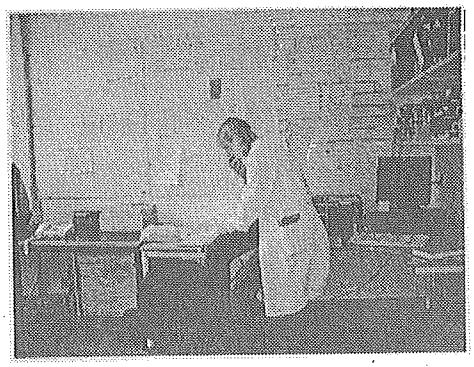


<Hvidovre Hospital のリハビリもできる綺麗に整理された廊下>



<Hvidovre Hospital の綺麗に整理されたディルーム>

役割分担の内容もちがう。医療効率のための分業化が進み、患者搬送担当や、書記担当など様々な業務を担当るスタッフが多く働いていた。それぞれのコメディカルスタッフが自分のテリトリーを持ち、自信を持って働いている。



<Hvidovre Hospital のセクレテリア（カルテ記録担当者）>

このようなコメディカルスタッフの中で、看護師はより患者のそばにいることができ、看護業務に専念できている。患者のストレス因子を分析しながら、看護診断を立案し、自分の誇れる専門分野を明確に示していた。看護師の中にも役割分担が明確にされ、認定看護師の制度が定着しており、専門性を発揮する看護師や病棟の管理業務を担当する看護師が、研究テーマをもって活躍していた。

<言語聴覚士は頸部のエコーも実施していた Saint Thomas Hospital で>

デモクラシー発祥の地ならではの国民性なのか、医療政策の結果なのか、それぞれのスタッフが自立しお互いを尊重しており、チーム全体が成熟しているという印象を受けた。

<朝から休憩室で看護師達のモーニング Hvidovre Hospital>

私は自分の病棟を振り返ってみた。

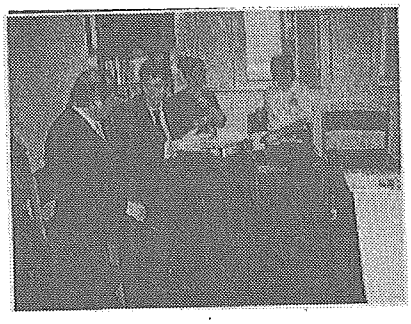
日本のナースはやっぱり優秀で勤勉で熱心である。手前みそではあるが、当院だけを見ても、看護部は組織的で、機動力に富み、現場の看護は活気がある。

しかし、視察した施設のナースのように看護独自の専門性をじっくり研究し、自信を持って主張できているだろうか？もちろん、日々研究に取り組み、自分たちが誇れる専門性は何だろうと常に自問自答しながら仕事している。看護師が判断する専門的観察力が左右することもデーターから出し、発表させて貰った。専門看護師の観察力・嚥下訓練・呼吸リハビリ・安静度拡大のリスク管理など、当病棟でもＳＣＵ看護の専門性を高めようと取り組んでいる。しかし、専門性の高い高度治療（おそらくヨーロッ

パの脳卒中医療より充実した検査と治療）のそばで、その医療を支えひたむきに看護しているスタッフたちに、もっと自分たち独自の専門領域を身につけ、深め頑張らせてあげたいと思った。元々持っているすばらしい看護の中身をもっと誇らしく主張させたいと感じた。もちろん、そのためにはより見聞を広め、自分たちの「看護の専門領域とは何か」を探求し学習していかなければならない。優秀なCVENやCNSに力を発揮してもらい、若いスタッフを教育してもらわなければならない。しかしそれ以上に私自身が看護師長として、スタッフの力が十分発揮できるよい職場環境を提供してあげているかと、自分の仕事をふり返る。日々検査だしにおわれる可能性を秘めた看護師たちを見て、「何でも屋の看護師さん」からもっと解放してあげたいと思う。そして患者様を看護する満足感をもっと実感してほしい。そのことが、結局はベッドサイドでの患者サービスを充実させ、患者様の満足へつながっていく。

＜Saint Thomas Hospital のSU師長さん＞

もう一つ、日本と大きく違うシステムに「病院リサーチシステム」があった。全国の病院診療の実態や、患者の経過、患者満足までが、定期的にリサーチされ完全に情報開示される。とくにデンマークでは国や地方自治体が中心となり実施しているため、データー収集にばらつきが無く正確である。その結果、病院自体が切磋琢磨し、収益にも反映する。医療の質の向上はもとより、情報開示することで、医療の効率化にもつながっている。在宅への支援は充実し、病院のフォローアップ体制も整っていた。そしてもっとも大きく日本の医療と違う結果として、寝たきり患者がほとんどいない。呼吸器を付けた脳卒中患者も全く見なかった。デンマークでも短期的に呼吸器を装着する場合はあると聞いたが、ほとんど希なケースだそうである。



＜他職種によるカンファレンスに参加 Qeens Square Hospital にて＞

日本ではどうだろうか。急な脳卒中の発症に対し、日頃から何の予備知識もない患者の家族が呼吸器装着などの究極の選択しなければならない状況にしばしば遭遇する。医師はいつも丁寧にインフォームドコンセントを行う。しかし、幾ら医師が丁寧に病状と可能性を説明し看護師がサポートしても、突然置かれた身内の厳しい状況を前にして、家族が将来を見据えた、その人にとって良い選択をできるとは限らない。やはり、日頃から情報や知識の習得と、自己決定する意識を培っておかなければならない。そのことがより後悔の少ない選択を支える。

国民総生産に占める総医療費の割合は、米国14.2%、日本7.2%、デンマークの6.4%（OPEC1995）と、デンマークの一人あたりの医療消費率は決して高くはない。しかし、医療に対する国民の満足度は世界1である。それは病院のリサーチシステムとその公開制度に裏付けられた国民主体の医療の結果である。

国民が医療を選択し、自分たちの受ける医療を作っていく。長期的なビジョンに支えられた医療の構築が、国民の医療に対する満足やQOLだけでなく、死生観や幸福感までも育てているように見えた。

日本においても、病院や看護師のあり方は、そこで働くものが決定していくものでもなく、もちろん経済性だけで決まっていくものでもない。しかし、その医療を受け、医療費を負担する国民が満足し、納得する形は、病院のあり方を決定する必須条件である。これからの日本の医療も、今以上に顧客満足と評価が尊重されるべきだと強く感じた。

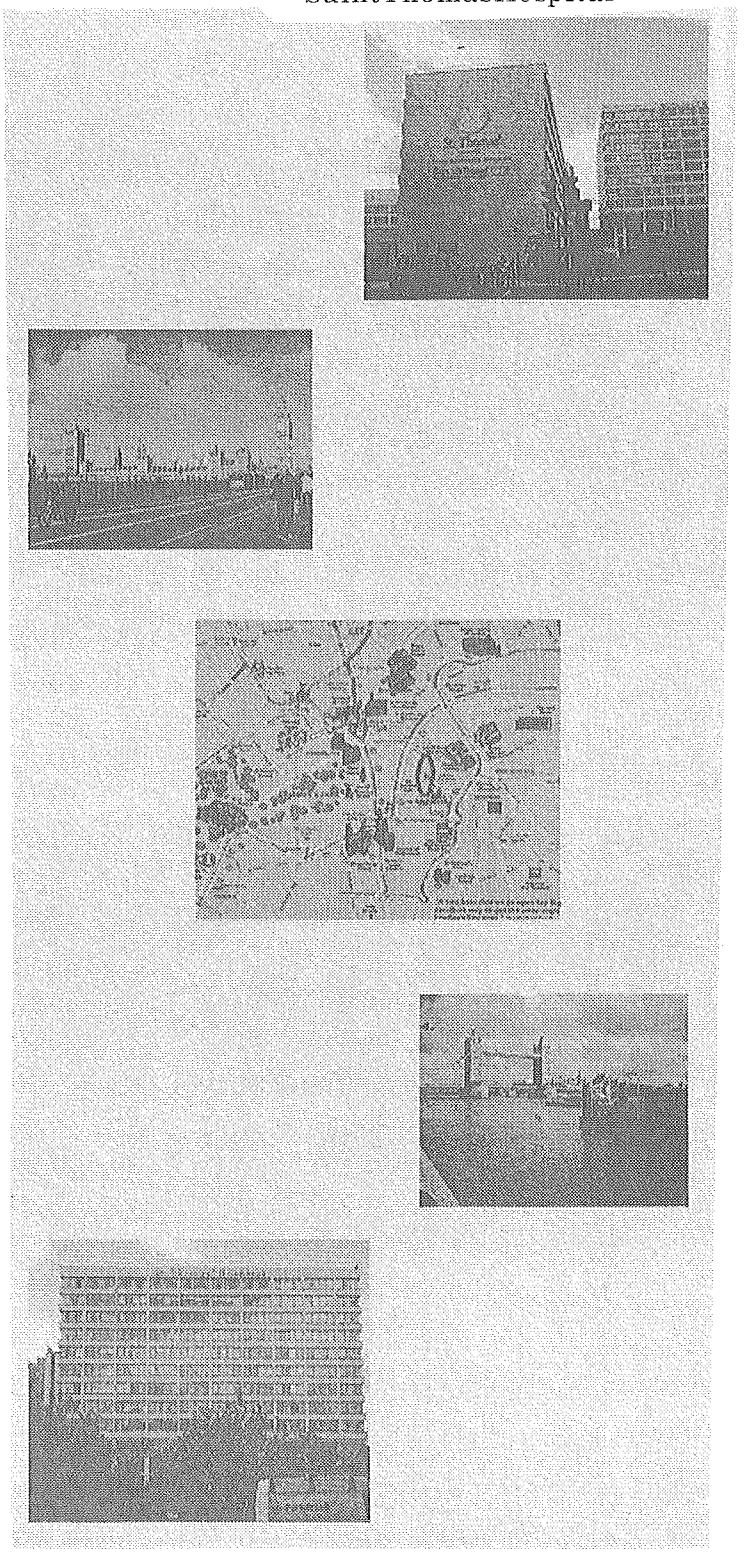
＜Prof、Olson のご自宅で＞

視察の帰りの飛行機で、奇しくもそんな話をしていた折り、あらゆる面で日本の医療・センターの医療のすばらしさも実感したなかで、「我が国における脳卒中医療の問題点と課題」の片鱗が見え、国立循環器病センターのSCU・SU の看護の役割と課題が見つかった気がした。臨床データーの宝庫であるセンターが、臨床でのリサーチや情報発信のリーダーシップをとり、変動する日本の脳卒中医療、そして看護の前進に寄与していくべきことがたくさんあること、スタッフの看護の専門性を向上させるためにも、量的な研究にとどまらず、患者のそばにいる看護の深みや醍醐味を考えられる質的研究に取り組むこと、そしてその専門性を高めたか看護師が、医師やコメディカルスタッフとともに、一般市民への啓発活動や情報発信を実践することが求められているのではないか。

今回の視察をきっかけに「我が国における Stroke Unit の有効性に関する多施設共同前向き研究」を通し、一般市民向けの啓蒙活動としてパネルディスカッションを開催することも出来た。本研究においては日本における Stroke Unit の有効性と看護師の専門性の重要性を立証することも出来た。国立循環器病センターのＳＣＵ師長として、これらの１年間の活動をスタッフと共に実践できたことの大きな動機付けの一つに、この視察があることを強く実感している。

この様な貴重な経験をさせていただいたことに感謝すると共に、これから大きく変容していく日本の脳卒中医療の中にあり、そこに携わる看護師長の一人として、これからも微力を尽くしていきたい。

SaintThomasHospital



II. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
峰松一夫	閉塞性脳血管障害：CT	橋本信夫	脳神経外科学体系第９巻	中山書店	東京	2004	46-55
峰松一夫	一過性脳虚血発作の内科的治療	山口徹、北原光夫	今日の治療指針2004年版	医学書院	東京	2004	607
峰松一夫	進行性脳卒中とBAD	峰松一夫	進行性脳卒中とBAD	医薬ジャーナル社	大阪	2004	
Kakuda W Shimizu T Naritomi H	Hypothermia therapy: Future directions in research and clinical practice.	In Maier CM, Steinberg GK	Hypothermia and Cereb-ral Ischemia,Mechanismsand Clinical Applications	Humana Pres	New Jersey	2004	161-177
宮下光太郎 成冨博章	1章、総論　病型とストロークスケール.	橋本信夫編	脳神経外科学体系	中山書店	東京	2004	18-31
成冨博章	脳血管障害を合併した高血圧におけるAll受容体拮抗薬の治療戦略の根拠は何か.	萩原俊男、菊池健次郎、猿田亨男、島本和明、日和田邦夫、宮_ 瑞男編集	A_受容体拮抗薬のすべて第3版	先端医学社	東京	2004	193-198

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
長谷川泰弘	Stroke Care Unit (SCU) の組織・体制・運営.	篠原幸人、永山正雄、濱田潤一	神経疾患クリティカルケアー	医学書院	東京	印刷中	
峰松一夫	線溶療法.	一瀬白帝	図説・血栓・止血・血管学. 血栓症制圧のために.	中外医学社	東京	2005	686-690
横田千晶、今村剛、清原裕、峰松一夫	メタボリックシンドロームの疫学:メタボリックシンドロームでは脳血管障害も多いですか？	片山茂裕、宮崎滋	肥満・メタボリックシンドローム診断ガイダンス	Medical view	東京	2005	47-49
矢坂正弘、峰松一夫	若年者脳卒中の頻度と臨床的特徴. 若年者脳卒中共同調査グループ (SASSY-JAPAN) の成績から.	小林祥泰	脳卒中データバンク 2005	中山書店	東京	2005	78-79
岡田靖	クリティカルパスからみた急性期病院の病床管理と医療連携	岡田靖	[専門医に学ぶ]脳卒中クリティカルパスと医療連携	メディカルビュー社	大阪	2006	10月15日
岡田靖	脳卒中クリティカルパスと医療安全.	岡田靖	[専門医に学ぶ]脳卒中クリティカルパスと医療連携	メディカルビュー社	大阪	2006	238-243
仲地耕、豊田一則、岡田靖	脳梗塞の入院後進行.	小林祥泰	脳卒中データバンク 2005	中山書店	東京	2005	58-59
豊田一則、仲地耕、岡田靖	脳梗塞の入院後再発.	小林祥泰	脳卒中データバンク 2005	中山書店	東京	2005	78-79

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yokota C, Kuge Y, Hasegawa Y, Inoue H, Tagaya M, Abumiya T, Kito G, Tamaki N, Minematsu K	Neuronal Cyclooxygenase-2 induction associated with spreading depression and focal brain ischemia in primates.	International Congress Series	1264	191-196	2004
Kuge Y, Kaji T, Hikosaka K, Yokota C, Seki K, Ohkura K, Shiga T, Minematsu K, Tamaki N.	Analysis of neuronal and glial functions in cerebral ischaemia: an approach with nuclear medicine	International Congress Series	1264	44-52	2004
Nakajima M, Kimura K, Ogata T, Takada T, Uchino M, Minematsu K	Relationships between angiographic findings and National Institutes of Health Stroke Scale (NIHSS) score in cases of hyperacute carotid ischemic stroke.	Am J Neuroradiol	25	238-241	2004
Kimura K, Kazui S Minematsu K,Yamaguchi T	Hospital-based Prospective Registration of Acute Ischemic Stroke and Transient Ischemic Attack in Japan.	J Stroke and Cerebrovasc Dis	13:	1-11	2004
Kaji T, Kuge Y, Yokota C, Tagaya M, Inoue H, Shiga T, Minematsu K, Tamaki N	Characterization of [123I]iomazenil distribution in a rat model of focal cerebral ischemia in comparison with pathophysiological findings.	Eur J Nucl Med Mol Imaging	31	64-70	2004
Kimura K, Minematsu K, Nakajima M	Isolated pulmonary arteriovenous fistula without Rendu-Osler-Weber disease as a cause of cryptogenic stroke.	J Neurol Neurosurg Psychiatry	75	311-313	2004
Yokota C, Kaji T, Kuge Y, Inoue H, Tamaki N, Minematsu K	Temporal and topographic profiles of cyclooxygenase-2 expression during 24hours of focal brain ischemia in rats.	NeuroSci Lett	357	219-222	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yokota C, Minematsu K, Hasegawa Y, Yamaguchi T.	Long-term prognosis, by stroke Subtypes, after a first-ever stroke: A hospital-based study over a 20-year period.	Cerebrovasc Dis	18	111-116	2004
Hasegawa Y, Yamaguchi T, Omae T, Mark Woodward, Jorn Chalmers	Effects of Perindopril-based blood pressure lowering and of patient characteristics on the progression of silent brain infarct: the perindopril protection against recurrent stroke study(PROGRESS) CT substudy in Japan.	Hypertens Res	27	147-156	2004
Fujimoto S, Yasaka M, Otsubo R, Oe H, Nagatsuka K, Minematsu K	Aortic arch atherosclerotic lesions and the recurrence of ischemic stroke.	Stroke	35	1426-1429	2004
Kimura K, Kazui S, Minematsu K, Yamaguchi T (J-MUSIC)	Analysis of 16,922 patients with acute ischemic stroke and transient ischemic attack in Japan.	Cerebrovasc dis	18	47-56	2004
Matsumoto N, Kimura K, Yokota C, Yonemura K, Wada K, Uchino M, Minematsu K	Early neurological deterioration represents recurrent attack in acute small non-lacunar stroke.	J Neurogical Sci	217	151-155	2004
Yokota C, Kuge Y, Hasegawa Y, Inoue H, Tagaya M, Abumiya T, Kito G, Tamaki N, Minematsu K	Neuronal cyclooxygenase-2 expression during spreading depression and focal brain ischemia.	脳循環代謝	16	89-94	2004
Inoue T, Kimura K, Minematsu K, Yamaguchi T, for the Japan Multicenter Stroke Investigators Collaboration (J-MUSIC)	A case-control study of intra-arterial urokinase thrombolysis in acute caedioembolic stroke.	Cerebrovasc Dis	13	155-159	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ogata T, Kimura K, Minematsu K, Kazui S, Yamaguchi T, for the Japan Multicenter Stroke Investigators Collaboration (J-MUSIC)	Variation in ischemic stroke frequency in Japan by season and by other variables.	J neurol Sci	225	85-89	2004
森本佳成、丹羽均、米田卓平、木村和美、矢坂正弘、峰松一夫	抗血栓療法施行患者の抜歯における出血管理に関する検討	日本口腔科学会雑誌	53	74-80	2004
峰松一夫、矢坂正弘、米原敏郎、西野晶子、鈴木明文、岡田久、鴨打正浩	若年者脳卒中診療の現状に関する共同調査研究。若年者脳卒中共同調査グループ（SASSY-JAPAN）	脳卒中	26	331-339	2004
峰松一夫	脳卒中の危険因子としての糖尿病?脳卒中各病型別にみた糖尿病の関与	Diabetes Frontier	15	790-794	2004
木村和美、数井誠司、峰松一夫、山口武典	発症３時間以内に受診した脳梗塞の入院時NIHSSスコアと退院時転帰．脳梗塞急性期医療の実態に関する研究グループ（J-MUSIC）．	脳卒中	25	312-321	2003
峰松一夫	キシメラガトラン国際共同研究SPORTIF　III.	血栓止血誌	15	119-212	2004
峰松一夫	心原性脳塞栓症の診断と治療.	脳卒中	25	413-417	2004
長谷川泰弘	高血圧大規模試験における認知機能障害.	脳と循環	19	43-47	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
峰松一夫	急性期脳血管障害の治療戦略ーBrain Attack時代のプロローグー 4) 超急性期血栓溶解療法のEBMと我が国現状.	日本内科学会雑誌	93	93-97	2004
福嶌由尚, 矢坂正弘, 峰松一夫	病態別の血栓検出法および制御法の進歩.心原性脳塞栓症.	Thrombosis and Circulation	12	52-57	2004
中島誠、峰松一夫	特集　糖尿病と心血管障害. 糖尿病における脳血管障害と診断と治療.	最新医学	59	66-71	2004
岡田俊一、長谷川泰弘、峰松一夫	脳梗塞. 脳循環代謝測定の臨床的再評価.	Clinical Neuroscience	22	434-436	2004
尾谷寛隆、碇山泰匡田中則子、峰松一夫	脳血管障害の理学療法のための検査・測定のポイントとその実際.	理学療法	21	7-14	2004
長谷川泰弘	椎骨脳底動脈不全症の診断とその意義.	日本医事新報	4171	92-93	2004
大坪亮一、峰松一夫	急性期脳梗塞の大規模臨床試験とエビデンス	最新医学	59	126-133	2004
大坪亮一、峰松一夫	虚血性脳卒中の急性期治療.	medicina	41	961-963	2004
峰松一夫	脳卒中をめぐる最近の話題. 特集にあたって	Pharma Medica	22	15-16	2004
宮下史生、 木村和美、峰松一夫	虚血性脳血管障害急性期の神経超音波検査.	BRAIN RESCUE	8	6-8	2004
峰松一夫	深部静脈血栓症、卵円孔開存、奇異性脳塞栓症、そして肺血栓塞栓症.	心臓	36	604-606	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
板橋亮、山本晴子、峰松一夫	頸動脈病変の病態からみた薬物療法.	分子脳血管病	3	33-39	2004
横田千晶、峰松一夫	脳血管障害におけるメタボリックシンドロームのEBM.	臨床医	30	1773-1775	2004
長谷川泰弘	ブレインアタックからの復帰に向けて：専門チームによる治療と早期リハビリテーション.	毎日ライフ	438	76-69	2004
山本晴子、峰松一夫	脳出血と神経心理学.	神経心理学	20	59-64	2004
峰松一夫	特集／脳卒中治療ガイドライン2004-内科医から見たコンセンサス- 2. 脳梗塞急性期の治療.	脳神経	56	921-926	2004
中垣英明、峰松一夫	脳血管疾患の分類とリスクファクター.	Angiology Frontier	3	283-289	2004
Nakajima M, Kimura K Minematsu K, Saito K, Takada T, Tanaka M	A case of frequently recurring amaurosis fugax with atherothrombotic ophthalmic artery occlusion.	Neurology	62	117-118	2004
大山直紀、大槻俊補峰松一夫、山口武典	Spectacular Shrinking Deficit(SSD)を呈した心原性脳塞栓症の1例.	脳と循環	9	47-51	2004
板橋亮、岡田俊一、山本晴子、峰松一夫高田英和、宮本享、山口武典	６ヶ月にわたり発作を繰り返した食後低血圧による血行力学性TIAの一例.	脳と循環	10	57-62	2005
薬師寺祐介、大坪亮一、矢坂正弘峰松一夫、山口武典	高度粥状硬化病変を伴わない大動脈弓部に生じた可動性巨大血栓による脳塞栓症の1例.	脳と循環	9	131-135	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
橋口良也、木村和美 峰松一夫、山口武典	無症候性心筋虚血を合併し、TIAを繰り返した内径動脈高度狭窄症の一例.	脳と循環	9	131-135	2004
峰松一夫	急性期脳血管障害の治療戦略ーBrain Attack時代のプロローグー 4) 超急性期血栓溶解療法のEBMと我が国現状.	日本内科学会雑誌	93	93-97	2004
Todo K, Moriwaki H, Higashi M, Kimura K, Naritomi H	A small pulmonary arteriovenous malformation as a cause of recurrent brain embolism.	AJNR	25	428-430	2004
Moriwaki H, Uno H, Nagakane Y, Hayashida K, Miyashita K, Naritomi H	Losartan, an angiotensin II (AT1) receptor antagonist, preserves the cerebral blood flow in hypertensive patients with a history of stroke.	J Human Hypert	18	693-699	2004
Saito K, Kimura K, Nagatsuka K, Nagano K, Minematsu K, Naritomi H	Vertebral artery occlusion in carotid duplex color-coded ultrasonography.	Stroke	35	1068-1072	2004
Taguchi A, Soma T, Tanaka H, Kanda T, Nishimura H, Yoshikawa H, Tsukamoto Y, Iso H, Stern DM, Naritomi H, Matsuyama T	Administration of $CD34^+$ cells post-stroke enhances angiogenesis and neurogenesis in a murine model.	J Clin Invest	114	330-338	2004
Kandori A, Yokoe M, Sakoda S, Abe K, Miyashita T,Oe H, Naritomi H, Ogata K, Tsukada K	Quantitative magnetic detection of finger movements in patients with Parkinson's disaease.	Neurosci Res	49	253-260	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Oe H, Kandori A, Miyashita T, Ogata K, Yamada N, Tsukada K, Miyashita K, Sakoda S, Naritomi H	Prolonged interhemispheric neural conduction time evaluated by auditory-evoked magnetic signal and cognitive deterioration in elderly subjects with unstable gait and dizzy sensation.	Intern Congr Ser	1270	177-180	2004
Taguchi A, Matsuyama T, Moriwaki H, Hayashi T, Hayashida K, Nagatsuka K, Todo K, Mori K, Stern D, Soma T, Naritomi H	Circulating CD34-positive cells provide an index of cerebrovascular function.	Circulation	109	2972-2975	2004
Hiroki M, Miyashita K, Oe H,Takaya S, Hirai S, Fukuyama H	Link between linear hyperintensity objects in cerebral white matter and hypertensive intracerebral hemorrhage.	Cerebrovasc Dis	18	166-173	2004
Takada T, Yasaka M, Minematsu K, Naritomi H, Yamaguchi T	Predictors of clinical outcome in patients receiving local intra-arterial thrombolysis without subsequent symptomatic intracranial hemorrhage against acute middle cerebral artery occlusion.	AJNR	25	1796-1801	2004
Ogata T, Kimura K, Nakajima M, Ikeno K, Naritomi H, Minematsu K	Transcranial color-coded real-time sonographic criteria for occlusion of the middle cerebral artery in acute ischemic stroke.	AJNR	25	1680-1684	2004
永野恵子、大坪亮一、矢坂正弘、梶本勝文、大江洋史、長束一行、成冨博章	卵円孔開存を有する脳塞栓症患者の再発に関する研究　超音波診断による深部静脈血栓との関連から一	臨床神経	44	7-13	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
玄富輪、森脇博、来真希子、林田孝平、成冨博章	三次元的表面投射法(3D-SSP)を用いたSPECTが病巣部位の検出に有用であった急性期脳梗塞の一例。	臨床神経	44	626-629	2004
来真希子、宮下光太郎、大江洋史、西上和宏、成冨博章	Buerger病に合併した若年性脳梗塞の一例 。	臨床神経	44	522-526	2004
石橋靖宏，成冨博章	脳静脈洞血栓症の病態と治療.	血栓と循環	12	98-102	2004
鈴木明文、ほか	秋田県立脳血管研究センターにおけるSCUの体制	The Mt. Fuji Workshop on CVD	18	209-213	2000
鈴木明文、ほか	Stroke Care Unit と脳卒中診療部	脳卒中	20(4)	556-559	2000
鈴木明文	Stroke Care Unit：脳卒中の治療成績向上をめざして	別冊）医学のあゆみ 脳血管障害：臨床と研究の最前線		132-135	2001
鈴木明文	脳梗塞の急性期治療と二次予防：SCUと一般病棟	診断と治療	89(11)	2036-2039	2001
鈴木明文、ほか	Stroke Unit とStroke Care Unit	救急・集中治療	15(12)	1303-1309	2003
植田敏浩、正田大介、伊藤敦史、畑隆志、福本真也、大西丘倫	中大脳動脈狭窄症に対する脳血管内治療の有用性と限界	The Mt. Fuji Workshop on CVD	22	91-95	2004
植田敏浩、畑隆志	脳塞栓症急性期の脳循環代謝の評価	分子脳血管病	3(1)	42-48	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Okada Y, Fujimoto S, Inoue T	A therapeutic Strategy for Brain Hemorrhages Utilizing an Acute Stroke Team	Brain Hemorrhage		69-75	2004
植田敏浩、正田大介、 伊藤敦史、野越慎司、 畑隆志	頚動脈狭窄症に対する血管拡張術後の過灌流症候群発症の術前予測における脳血流測定の有用性	Rad Fan	2(6)	126-129	2004
豊田一則、岡田靖、 藤本茂、長谷川泰弘、 井林雪郎、井上亨	脳出血内科治療例の急性期転帰推定とクリティカルパスの作成	臨床神経	44	342-349	2004
岡田 靖、萩原のり子、 豊田一則、井上亨	脳梗塞急性期の内科治療	The Mt.Fuji Workshop on CVD	22	43-49	2004
上床武史、岡田　靖	脳卒中の内科治療はどこまで進んだか	ブレインナーシング	20(8)	814-822	2004
陣内重郎、 豊田一則、岡田　靖	診療所から急性期病院への紹介-急性期病院の立場から-.	治療	87	65-70	2005
豊田章宏	脳卒中急性期リハビリテーションとリスク管理	OTジャーナル	39 (3)	190-194	2005
平松和嗣久、 豊田章宏、真辺和文	脳卒中発症後の職業復帰	リハビリテーション医学別冊	41 (7)	465-471	2004
豊田章宏	脳卒中診療体制とリハビリテーション	Pharma Medica	22	41-45	2004

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Abumiya T, Yokota C, Kuge Y, Minematsu K	Aggravation of hemorrhagic transformation by early intraarterial infusion of low-dose vascular endothelial growth factor after transient focal cerebral ischemia in rats.	Brain Res	1049	95-103	2005
Isa K, Yasaka M, Kimura K, Nagatsuka K, Minematsu K	Transoral carotid ultrasonography for evaluating internal carotid artery occlusion.	Inter Med	44	567-571	2005
Inoue T, Kimura K, Minematsu K, Yamaguchi T, for the Japan Multicenter Stroke Investigators' Collaboration (J-MUSIC)	A case-control analysis of intra-arterial urokinase thrombolysis in acute cardioembolic stroke.	Cerebrovasc Dis	19	225-228	2005
Kimura K, Minematsu K, Yamaguchi T, for the Japan Multicenter Stroke Investigators' Collaboration (J-MUSIC)	Atrial fibrillation as a predictive factor for severe stroke and early death in 15,831 patients with acute ischemic stroke	J Neurol Neurosurg Psychiatr	76	679-683	2005
Kimura K, Minematsu K, Kazui S, Yamaguchi T, for the Japan Multicenter Stroke Investigators' Collaboration (J-MUSIC)	Mortality and cause of death after hospital discharge in 10,981 patients with ischemic stroke and transient ischemic attack.	Cerebrovasc Dis	19	171-178	2005
Kuge Y, Katada Y, Simonaka S, Temma T, Kimura K, Kiyono Y, Yokota C, Minematsu K, Seki K, Tamaki N, Ohkura K, Saiji H	Synthesis and evaluation of radioiodinated cyclooxygenase-2 inhibitors as potential SPECT tracers for cyclooxygenase-2 expression.	Nucl Med and Biology	33	21-27	2006
Nakajima M, Kimura K, Inatomi Y, Terasaki Y, Nagano K, Yonehara T, Uchino M, Minematsu K	Intermittent oro-esophageal tube feeding in acute stroke patients: A pilot study.	Acta Neurol Scand	113	36-39	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ogata J, Yonemura K, Kimura K, Yutani C, Minematsu K	Cerebral infarction associated with essential thrombocythemia: An autopsy case study	Cerebrovasc Dis	19	201-205	2005
Ogata T, Yasaka M, Yamagishi M, Seguchi O, Nagatsuka K, Minematsu K	Atherosclerosis found on carotid ultrasonography is associated with atherosclerosis on coronary intravascular ultrasonography.	J Ultrasound Med	24	469-474	2005
Ogata T, Kimura K, Nakajima M, Naritomi H, Minematsu K	Diagnosis of middle cerebral artery occlusive lesions with contrast-enhanced transcranial color-coded real-time sonography in acute stroke.	Neuroradiology	47	256-262	2005
Shiraishi A, Hasegawa Y, Okada S, Kimura K, Sawada T, Mizusawa H, Minematsu K	Highly diffusion-sensitized tensor imaging of unilateral cerebral arterial occlusive disesae.	AJNR Am J Neuroradiol	26	1498-1504	2005
Toyoda K, Okada Y, Minematsu K, Kamouchi M, Fujimoto S, Ibayashi S, Inoue T	Antiplatelet therapy is predictive of acute deterioration of intracerebral hemorrhage.	Neurology	65	1000-1004	2005
Yakushiji Y, Yasaka M, Takada T, Minematsu K	Serial transoral carotid ultrasonographic findings in extracranial internal carotid artery dissection.	J Ultrasound Med	24	877-880	2005
Yasaka M, Ikeno K, Otsubo R, Oe H, Nagano K, Minematsu K	Right to left shunt evaluated at the aortic arch by contrast-enhanced transesophageal echocardiography.	J Ultrasound Med	24	155-159	2005
Yasaka M, Sakata T, Naritomi H, Minematsu K	Optimal dose of prothrombin complex concentrate for acute reversal of oral anticoagulation.	Thromb Res	115	455-459	2005
Yasaka M, Otsubo R, Oe H, Minematsu K	Is stroke a paradoxical embolism in patients with patent foramen ovale?	Inter Med	44	434-438	2005
Yokota C, Kuge Y, Inoue H, Tamaki N, Minematsu K	Bilateral induction of the S-100A9 gene in response to spreading depression is modulated by the cyclooxygenase-2 activity.	J Neurol Sci	234	11月16日	2005
Minematsu K	EBM and current state in Japan of thrombolytic therapy for acute ischemic stroke.	Inter Med	44	369-371	2005
峰松一夫、松本昌泰	若年層における脳血管障害 Update. 座長の言葉.	臨床神経	45	841	2005

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
牧浦倫子、矢坂正弘、峰松一夫	抗凝固療法中患者の抜歯時の出血管理.	脳卒中	27	424-427	2005
板橋亮、峰松一夫	特集　心血管エマージェンシー. 意識障害で来院した患者に対する早期診断と初期診断 - 虚血性脳卒中	内科	96	462-466	2005
上原敏志、峰松一夫	心房細動による塞栓症の急性期治療.	治療学	39	405-409	2005
上原敏志、峰松一夫	脳血管疾患における血栓溶解療法の適応と問題点	Medical Practice	22	1601-1605	2005
大槻俊輔、峰松一夫	特集　脳・心血管イベント予防に対するアスピリンの臨床的有用性(EBM)と新たな可能性. 8. 脳卒中急性期におけるアスピリン.	Progress in Medicine	25	389-393	2005
尾原知行、峰松一夫	患者と家族に説明するための疾患別今日の治療薬. 9　脳梗塞.	看護実践の科学	30	4月7日	2005
粕谷潤二、高田達郎、峰松一夫	血栓溶解療法.	Vascular Lab	12	196-203	2005
長谷川泰弘	脳卒中診療のガイドライン(超急性期).	MMJ	1	674-677	2005
峰松一夫	糖尿病や高血糖の急性期脳血管障害への影響.	糖尿病	48	16-18	2005
峰松一夫	血管疾患診断ガイドライン - 血管疾患診療の際に知っておくべき基礎知識.	Vascular Lab	2	109-112	2005
峰松一夫	「運動器の10年」世界運動の中での日本. Stroke unit 整備の重要性.	THE BONE	19	397-401	2005
峰松一夫	脳卒中急性期の治療. 脳梗塞患者に対する血栓溶解薬静注療法のエビデンス.	EBM　ジャーナル	6	532-537	2005
峰松一夫	わが国の脳卒中の変遷と現状 - 世界との比較から -.	CURRENT THERAPY	23	964-967	2005
峰松一夫	脳血管障害と心疾患.	成人病と生活習慣病	35	533-538	2005
峰松一夫	特集　脳卒中医療の変貌. 脳卒中超急性期治療の現状と将来.	循環器科	57	336-341	2005
峰松一夫	t-PAが開く新たな脳梗塞急性期治療の地平: 日本と世界における急性期血栓溶解療法の現状.	Medio	23	16-25	2005
矢坂正弘、峰松一夫	若年性脳梗塞 - 脳卒中専門医は心エコー図検査に何を期待するか -.	心エコー	6	256-266	2005